

## 未就学児の性の健康教室における助産学生の学び

高橋雪子 前森桃子 藤邊祐子

### 要旨

本研究は、未就学児の性の健康教室を通じて助産学生4名が学んだことについて自由記述したレポートを分析した質的記述的研究である。記述内容をもとに、【目的と内容を計画的に余裕をもって立案】【対象に合わせた展開と口述書の作成】【対象に合わせた伝え方の工夫】【リハーサルと各自の練習の重要性】【学生4名がチームとして責任を果たす】【施設側との連携と会場設営】【学生時代に経験する価値】の7カテゴリが抽出された。健康教育技法の科目に位置づけられた演習を通じて地域貢献に参加できたことは、健康教育技法の習得のみならず卒業後の助産師活動への意欲につながっていた。

キーワード：未就学児、性の健康教室、助産学生の学び

### I はじめに

我が国における未就学児への性教育は、子供たちの性をめぐる問題、事件が取り上げられるようになり、包括的な性教育の必要性が認識され始めている。国外においては、ユネスコの『【改訂版】国際セクシュアリティガイダンス』が、乳幼児期（5～8歳）の性教育の内容を8つの重要な考え方で性教育の課題を整理している<sup>1)</sup>。また、オランダでは国立カリキュラム研究所が性教育の「学習ライン（指針）」を出しており、対象年齢は0～4歳・4～6歳となっている<sup>2)</sup>。我が国の文部科学省は、「性犯罪・性暴力対策」として「生命の安全教育」を推進する全国的な取り組みを2023年度から支援している<sup>3)</sup>が包括的性教育とはいいいがたい<sup>4)</sup>。

健康教育とは、日本健康教育学会によると「一人一人の人間が、自分自身や周りの人々の健康を管理し向上していけるように、その知識や価値観、スキルなどの資質

や能力に対して、計画的に影響を及ぼす営み」である<sup>5)</sup>。これには様々な職種の人が関わり、助産師もマタニティサイクルおよびライフサイクルにある対象者に健康教育をする大きな役割を担っている。本別科助産専攻においては、「健康教育技法」の科目で健康教育について学習しており、マタニティサイクルの保健指導の他に地域で実践する活動として、「高校生女子アスリートへの月経教育」「未就学児の性の健康教室」の二つに取り組んでいる。

令和6年度は、「未就学児の性の健康教室」を学校法人光星学院の系列幼稚園3か所と八戸市美術館サテライト（一般公募）において所要時間20分で4回開催した（表1）。準備段階から学生の成長は目覚ましく最後の教室では自立して主体的に運営することができていた。この一連の学習過程において学生は何を学んだと自覚しているのかを把握したいと考え、本研究に取り組んだ。

## II 未就学児の性の健康教室の位置づけと進め方

科目名「健康教育技法」は、講義開講時期は通年で2単位の科目である。演習科目30回のうち、後半7回で「女子高校生アスリートの月経教育」と並行して準備・実践する。学生4名のうち2名がそれぞれの主担当となり、他の2名と協力しながら準備・実践に関わった。

## III 研究目的

未就学児の性の健康教室における助産学生の学びを明らかにすることである。

## IV 研究方法

### 1. 対象

学生が未就学児の性の健康教室が終了した時点で、評価項目（表2）に沿って得られた学びについて自由記述したレポート。

### 2. 分析方法

学生のレポートを「学び」の視点で熟読した。次に、学びに関する内容をコード化し、類似性と差異性に基づきサブカテゴリー、カテゴリーを生成した。

### 3. 倫理的配慮

研究対象者に調査の主旨、個人情報の保護、本研究以外の目的では使用しないこと、参加同意の自由、研究参加の有無は教育や成績評価に影響しないこと、資料の保存と廃棄などについて文書と口頭で説明し、参加する学生は同意書を提出した。八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部研究倫理委員会の承認を得た（No.24-12）。

## V 結果

学生が「学び」について内容を分析した結果、82コード、16サブカテゴリーは、7カテゴリーが抽出された。以下、カテゴリーは【 】、サブカテゴリーは《 》、コードは〈 〉で示す（表3）。

### 1. 【目的と内容を計画的に余裕をもって計画を立案】

このカテゴリーは、〈対象の発達課題やニーズに応じた目標の設定〉〈未就学児が理解しやすい内容〉〈講義と並行させるため余裕のある計画〉などの18のコードから、《目的と必要性の確認》《対象に合った内容の検討》《余裕のある計画》3項目にサブカテゴリー化された。

### 2. 【対象に合わせた展開と口述書の作成】

このカテゴリーは、〈アイスブレイクは緊張をほぐす〉〈一度手本を見せてから行ってもらおう〉などの15のコードから、《参加型を主とした内容の工夫》《活用しやすい口述書の作成》の2項目にサブカテゴリー化された。

### 3. 【対象に合わせた伝え方の工夫】

このカテゴリーは、〈保護者も含めて全員に聞こえる声の大きさ〉〈色彩豊かでわかりやすい教材〉などの13のコードから、《未就学児の理解しやすい表現方法》《未就学児を飽きさせない》の2項目にサブカテゴリー化された。

### 4. 【リハーサルと各自の練習の重要性】

このカテゴリーは、〈リハーサルを重ねるたび改善点が見つかり質が向上した〉〈録画した映像を参考に見返し改善の参考にした〉などの13のコードから、《リハーサルや各自の練習の徹底》《練習の工夫》の2項目にサブカテゴリー化された。

#### 5. 【学生4名がチームとして責任を果たす】

このカテゴリーは、〈一人に負担が大きくならないように公平に分担〉〈全体を把握することで本番のとっさの支援ができる〉などの7のコードから、《役割分担》《全体の調整》の2項目にサブカテゴリー化された。

#### 6. 【施設側との連携と会場設営】

このカテゴリーは、〈事前に打ち合わせをすることで全体の進行がスムーズになる〉〈会場の大きさや備品を考慮した環境の整備〉などの10のコードから、《施設側と礼節ある打ち合わせ》《効果的な会場設営》の2項目にサブカテゴリー化された。

#### 7. 【学生時代に経験する価値】

このカテゴリーは、〈助産学生として性の大切さを確認〉〈様々な技法を学び今後活かせる〉〈企画から実践まで仲間と協力してできたことは意味がある〉などの6のコードから、《性の大切さの確認》《卒業後への活用》《学生間での共有体験》の3項目にサブカテゴリー化された。

### VI 考察

未就学児の性の健康教室を開催した学生の学びは、【目的と内容を計画的に余裕をもって立案】【対象に合わせた展開と口述書の作成】【対象に合わせた伝え方の工夫】【リハーサルと各自の練習の重要性】【学生4名がチームとして責任を果たす】【施設側との連携と会場設営】【学生時代に経験する価値】の7カテゴリーが抽出された。以下、カテゴリー別に考察する。

#### 1. 【目的と内容を計画的に余裕をもって立案】

学生は、講義で学んだ内容をもとに、ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」<sup>1)</sup>や文部科学省の「生命の安全教育」<sup>2)</sup>そしてこの数年で数多く出版されている幼児用性教育絵本を参考に性の健康教育の必要性を確認し目標・内容を検討していた。学生は、余裕のある計画を重要視しており、その他の科目と並行させながら余裕をもって準備をしたことが学びにつながっていることがわかった。無論、7回の講義時間だけでは実践まで準備することはできないため、空き時間の活用が必要であったが、準備段階での余裕ある検討時間は実践を成功させる上で有効であったことが伺われる。教員は、常に学生の状況を把握しながら学習環境の調整に配慮することが重要である。

性の健康教室は、「自分の身体を知って大事にしよう」がスローガンで、そのためにプライベートパーツやいいタッチ悪いタッチを取り入れた展開は、学生が悩みながら検討した結果であった。これは「性犯罪予防」にもつながるが、それは「自分の身体は自分のもの」という人権意識と体に関する基本的な知識が基礎となっている。

#### 2. 【対象に合わせた展開と口述書の作成】

学生がアイスブレイクとして考えた【手遊び】はじまるよはじまるよ<sup>6)</sup>は、普段園児たちが慣れ親しんでいる歌だった。よって、園児の参加はスムーズで学生と園児の距離が縮まり緊張をほぐすのに有効であったため、学生は身をもってアイスブレイクの大切さを認識したと考える。また、参加をすすめるにあたり、手本を見せたり寄り添うことで園児の成功体験につながり次の

展開に主体的に臨めるという、配慮する意味を学んだと考える。

口述書は教員の指導はほとんどなく、自分たちでリハーサルを繰り返しながら試行錯誤で作成していた。自分の担当箇所以外も目を通すことで全体を把握し、セリフとともに動作を書き入れイメージトレーニングに役立てていた。4回の本番であったが回を重ねながら改善される点は、その都度更新し最終的には質の高い口述書になった。

### 3. 【対象に合わせた伝え方の工夫】

これまで園児を対象に話をした経験がない学生たちは、どう工夫したら良いかを考え、実演までにかなりの時間を費やしていた。まずは、「恥ずかしがらずに大きな声を出そう、しかし声を大きくすることと相手に伝わることは違う」という点に気づき、教材の工夫と合わせて苦労していた。学生にとっては初めての体験であったため、勇気と努力を費やしていることがわかった。劇やクイズは、園児の注目を得るために効果的であったが、「何を伝えるためのものか」を念頭に工夫を重ね、要点を口頭で確認することで知識の定着を図っていた。これは、受動的な方法と能動的な方法を交互に活用しながら教育効果を上げる技法といえる<sup>7)</sup>。

### 4. 【リハーサルと各自の練習の重要性】

口述書の読み合わせから、本番同様の教材を使用するリハーサルと、段階を経て数多くのリハーサルを実施していた。その中で、〈対象者の視点に立つことで改善点がみつかるとあるように、園児の立場にたって目標を達成するための技法を学んでいたことがわかり、健康教育の意図する原則

を身につけていた。練習は、録画の見直しや家族相手の練習を重ねながら〈体に染みつくくらい練習した〉という取り組みが成果につながることを学んでいた。

### 5. 【学生4名がチームとして責任を果たす】

女子高校生アスリート対象の健康教育と、未就学児対象の健康教育は主担当2名、副担当2名がそれぞれを担っていたため、その負担を考慮しながら役割分担をしていた。自分の役割を責任をもって果たしたうえで、全体の調整にも関わり実際の協力体制はできていた。その中で〈本番でとっさの支援ができる〉〈仲間への気遣いができる〉などの学びはチームプレでの貴重な学びであり、学生の成長を実感するものである。

### 6. 【施設側との連携と会場設営】

施設側との関わりは学生にとって社会との関わりであり、地域で活動していく上で避けられない場面である。社会人としてのマナーを守り、健康教室への理解を促すことが〈事前に打ち合わせをすることで全体の進行がスムーズになる〉という学びに繋がっていると考える。また、〈会場の大きさや備品を考慮した環境の整備〉においては短時間で対応しなければならないため、教員3名の協力が必要であった。しかし、回を重ねるに従い学生は自ら判断工夫し、環境整備に臨んでいた点に成長を感じた。環境整備をする上で「快適性」の学びがほとんどで「安全性」の学びはなかったことは、次年度の課題とする。

### 7. 【学生時代に経験する価値】

学生の〈助産学生として性の大切さを確認〉〈様々な技法を学び今後活かせる〉

〈企画から実践まで仲間と協力してできたことは意味がある〉の学びは、助産師になってから健康教育に携わる役割を自覚していることがわかる。また、学生仲間と成し遂げた経過の中で学んだことが、「地域への貢献」にもつながったことは大きな自信となって今後に活かせると推測する。

今回の研究の分析対象にしていないが、学生は、健康教室実施後に保護者にアンケートをとっていた。ほとんどの保護者が、「子どもに理解しやすい内容だった」「家庭における性教育の参考になった」と答えており、園児からも、「もう一度、このお姉さんたちの話がききたい」などのエールがあり、学生たちの達成感につながっていた。

## VII 結論

未就学児の性の健康教室を開催した学生の学びは、【目的と内容を計画的に余裕をもって立案】【対象に合わせた展開と口述書の作成】【対象に合わせた伝え方の工夫】【リハーサルと各自の練習の重要性】【学生4名がチームとして責任を果たす】【施設側との連携と会場設営】【学生時代に経験する価値】の7カテゴリーが抽出された。学生は、健康教室開催における要点について実際を通じて数多く学んでいたことが明らかにあった。今後も学生の主体性を尊重しながら学習過程にそった指導を行い、地域貢献につながる健康教室開催を継続していきたいと考える。

## VIII 本研究の限界と今後の課題

本研究は、助産学生4名が健康教室を振

り返っての学びについて自由記述したレポートを分析した質的記述的研究である。よって一般化することはできない。また、学生のレディネスによって文章表現に差があるため学びを評価することはできない。しかし、今後も未就学児の性の健康教室を継続していくため、学生の学習環境を整え学習過程を指導していく上で参考にしたい。

## 謝辞

本研究にご協力いただいた助産学生に深く感謝致します。また、学校法人光星学院による令和6年度特別研究費として助成を受けたことをここに記し、感謝申し上げます。

## 利益相反

本研究の開示すべき利益相反はない。

## 文献

- 1) ユネスコ編：国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】、明石書店、19-159、2020
- 2) リヒテルズ直子：0歳からはじまるオランダの性教育、日本評論社、220、2023
- 3) 文部科学省：生命の安全教育：  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/danjo/anzen/index2.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index2.html)（検索日 2024-12-10）
- 4) 浅井春夫・艮香織：からだの権利教育入門—幼児・学童編、子どもの未来社、3-4、2022
- 5) 日本健康教育学会：健康教育とは、  
<https://nkgg.eiyo.ac.jp/pg1124.html>（検索日 2024-12-10）
- 6) 【手遊び】はじまるよはじまるよ

<https://www.youtube.com/watch?v=sUotEQR5J2s>

- 7) 助産学講座 5 助産診断学・技術学 I、  
医学書院、119、第 6 版、2023

執筆者紹介（所属）

高橋 雪子

八戸学院大学別科助産専攻 教授

前森 桃子

八戸学院大学別科助産専攻 助教

藤邊 祐子

八戸学院大学別科助産専攻 講師

表 1. 未就学児の性の健康教室 概要

指導場所	法人系列幼稚園 3 か所、八戸市内サテライト 1 か所
対象者	3 つの幼稚園児年長と保護者、公募した幼児と保護者
指導目標	<p>幼児がプライベートパーツについて知ることができるように要点を絞って説明できる</p> <p>男の子と女の子の体の違いを教材を使って説明できる</p> <p>いいタッチと悪いタッチについて判断して行動できるように説明できる</p>
準備	会場設営と施設側との打ち合わせ
展開	<p>導入 3 分 始まりの歌・挨拶・自己紹介・学習内容の提示</p> <p>本論 15 分</p> <p>1. プライベートパーツ</p> <p>園児に体の大切な部位について尋ねる</p> <p>園児に太郎・花子の着替えを実施してもらう</p> <p>プライベートパーツの説明をする</p> <p>園児とともにプライベートパーツを声に出して言う</p> <p>2. 男の子と女の子の体の違い</p> <p>男女のからだの違いについて尋ねる</p> <p>教材を使用し男女のからだの違いについて説明する</p> <p>男女兼用の水着（ユニバーサル水着）の実物を紹介</p> <p>3. いいタッチと悪いタッチ</p> <p>悪いタッチはどんなタッチかを尋ねる</p> <p>悪いタッチをされたらどんな気持ちになるかを尋ねる</p> <p>寸劇で悪いタッチについて説明をする</p> <p>悪いタッチをされたときの対処方法を説明する</p> <p>（いやだ、にげる、はなす）</p> <p>3 つの合言葉を園児と復唱する</p> <p>いいタッチの説明といいタッチをされた時の気持ちを尋ねる</p> <p>いいタッチの説明をする</p> <p>いいタッチでも同意が必要なことを説明する</p> <p>4. 応用編（寸劇）</p> <p>寸劇で見知らぬ人に悪タッチをされた場合の対処方法を実演する</p> <p>園児二人に参加してもらい対処方法を復習する</p> <p>信頼できる大人は、園長先生か担任の先生に依頼する</p> <p>3 つの合言葉を全員で復唱する（特に「いやだ」は大きな声で）</p> <p>まとめ 3 つのテーマの復習</p> <p>2 分 挨拶</p>
園児退室	
保護者アンケートの実施	

表2. 評価項目の一覧	
準備段階	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 根拠に基づいた教育内容を十分に学修できた</li> <li>2. 対象者の背景やニーズに応じた指導方法を工夫できた</li> <li>3. 対象者の発達段階に応じた指導方法を工夫できた</li> <li>4. 目標に沿った指導内容を網羅し構成できた</li> <li>5. わかりやすく工夫した口述書を作成できた</li> <li>6. 主体的な参加を促すための効果的な指導方法を工夫できた</li> <li>7. 自己の役割を明確にし、努力して計画的に準備できた</li> <li>8. 健康教育技術における事故の課題に取り組むことができた</li> <li>9. リハーサルを実施し、対象者の視点で修正できた</li> <li>10. 助産学生としての思いや主観が言語化できた</li> </ol>
実施段階	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者の安全性や快適性に配慮して会場設営ができた</li> <li>2. 指導内容を対象者にわかりやすくつたえることができた</li> <li>3. 対象者の反応を見ながら、状況に合わせた説明を行えた</li> <li>4. 適切な声の大きさ、語調、スピードで話すことができた</li> <li>5. 教材、媒体を効果的に活用できた</li> <li>6. 対象者の誘導、案内、参加に敬意をもって接することができた</li> <li>7. 全体の動きを把握して自己の役割を遂行できた</li> <li>8. 実施施設のスタッフとの連携の重要性を考え礼節をもって対応できた</li> </ol>



## 高橋雪子他：未就学児の性の健康教室における助産学生の学び

表3. 未就学児の健康教室を通じての学び

カテゴリー (7)	サブカテゴリ (16)	コード (82)
目的と内容を計画的に 余裕をもって立案	目的と必要性の確認	「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」や「生命の安全教育」を参考にした 幼児用の絵本を通じてイメージできた 適切な時期に必要な性の学習は必要である 対象の発達段階やニーズに応じた目標を設定する 性に関する正しい知識は性被害の防止につながる
	対象に合った内容の検討	未就学児に必要な内容が分かった プライベートパーツは水着で隠れる場所では自分だけの大事な場所 未就学児が理解しやすい内容を考える 男女のからだの違いは取り入れる いいタッチと悪いタッチがあること いいタッチであっても同意が必要なことを伝える 基本的な人権意識として「いやだ」「にげる」「はなす」がある 昨年の保護者アンケートや幼稚園教諭の意見が参考になった 未就学児は性に関して先入観がなく内容を素直に受け止める わかりやすい3つのテーマに内容を網羅させて要点を絞る それぞれのテーマで大事なことは何かをはっきりさせる
	余裕のある計画	講義と並行させて教材の準備や練習を実施するには、計画に余裕が必要である 計画に余裕をもつことで何度も改善できると実施してみてわかった
	対象に合わせた展開と 口述書の作成	アイスブレイクとして「数え歌」「自己紹介」をとりいれ緊張をほぐす アイスブレイクは興味関心を引くのに役に立った 参加型を促す際に、「やってみたい人？」と問いかけ自主性を促す 美術館では一般の参加で園児同士が知り合いでないため保護者と一緒に参加してもらった 学生が寄り添い誘導した 一度手本見せてから行い、手本を見せられない時は手伝った 「いやだ」と大きな声を出す練習は全員で行うことで身に着く 参加した園児や問いかけに応じてくれた時は、「有難う」とかならず伝える 問いかけの答えが間違っていないと否定しない
対象に合わせた伝え方の 工夫	活用しやすい口述書の作成	対象者がわかりやすい言葉を選ぶ 強調したいところは色を使って目立つようにする 表や印で自分の担当箇所がわかりやすいようにする セリフだけではなく動作も記載する 留意点を書き練習に役立てる 改善点を加えることで更新がしやすい様式にする
	未就学児の理解しやすい 表現方法	保護者も含めて全員に聞こえる大きな声で話す 恥ずかしいと声小さくなるから練習を重ねた 園児に合わせたスピードがわからず保育士の方の話方を参考にした ゆっくりを意識したら間が伸びて時間をオーバーすることになった 重要なところはゆっくり大きな声を出すのが効果的であった リハーサルでは笑顔で話すのが苦手であったが本番は自然に笑顔になれた 子どもたち全員に目線を配る配慮ができた 油断すると訛りがでるため気を付けた
	未就学児を飽きさせない	教材を色彩豊かにして幼児用にわかりやすく作成した 指棒をつかいながら注目をひいた 参加する場面を多くし、劇やクイズなどを取り入れた 集中するのが難しい園児には保育士が付き添ってくれたので助かった 園児の反応を否定することなく次につなげる
	リハーサルと各自の 練習の重要性	リハーサルを重ねるたび改善点が見つかり質が向上した リハーサルは対象者の視点にたつことで改善されていく リハーサルの改善とともに口述書が改善され更新される リハーサルをすることで自分の癖がわかる 全体の動きを把握するためにもリハーサルは必要である まずは各自が練習しリハーサルに臨む 学生同士でチェックしあったあとに教員に観てもらい指導を受けた 内容の修正には教員の指導が役に立った
学生4名がチームとして 責任を果たす	練習の工夫	まずは自分の担当をしっかりと暗記した 録画した映像を見返し改善の参考にした 本番と同じ設定で教材を用いて練習した 家族を相手に練習しイメージトレーニングを重ねた 身体に染みつくくらい練習した
	役割り分担	一人に負担が大きくなるように公平に分担した 自分の担当は責任をもって実施した 自分のセリフと動きは完璧に身につけた 準備と後片付けはその場にに合わせて各自が役割を果たした
	全体の調整	全体を把握することで本番でのとっさの支援ができた 全体を把握していないと対象者の反応に応える際の協力ができない 全体を把握すると仲間への気遣いができる
	施設側との連携と会場設営	事前に打ち合わせることで全体の進行がスムーズになる 内容について説明し保育士の協力の必要な個所を伝える 礼節をもった態度で接し敬意を示した 教育の場を設けていただいたことの感謝を伝えた 信頼関係は今後の活動にも影響する 敬意が伝わると健康教室の協力も得やすくなる
学生時代に経験する価値	効果的な会場設営	会場の大きさや備品を考慮し環境の整備を行った 椅子に座る園と床に座る園があったため目線や学生の立ち位置に工夫が必要であった 照明を考慮し必要時カーテンを開閉した 教材がどこに座ってもしっかりみえる位置に配置した
	性の大切さの確認	助産学生として性の大切さを確認できた 性に関する「思い」を直接言語化するのは難しいが健康教室を通じて経験できた
	卒業後への活用	助産師は保健指導や性教育をする役割があるため役に立つ経験であった 健康教室をする上でのさまざまな技法を学ぶことができ今後活かせる
	学生間での共有体験	企画から実践まで仲間と協力してできたことは意味がある 学生間で「思い」を言語化していく作業は貴重な経験であった